

# 土木遺産である別所砂留の整備・保存活動

## 広島県福山市 別所砂留を守る会

平成21年(2009年)、地元の高老から「この山にはなし、江戸時代の石垣があるので」と聞いた二人は、その存在を確認しようとして、50

年以上も人の手が入っていなかった山に踏み入った。背丈以上になっている笹竹、倒木、ぬかるみなど行く手を阻まれながら、最初は一日50メートルも進めなかった。それでもジャングルになっている木々を切り開きながら、沢に降りては砂留を探した。山に入ってから1年目、幾度となく道なき道を上り下りついに「すごいものがある!」と発見したのがアーチ状の見事な石垣であった。あまりの雄大さと美しさに息を飲むとはこのことであった。「これは地域の宝物にせんといけん!」との掛け声のもと、地域が全面的に協力し、地元有志による取り組みが始まり、これまで大型

砂留14基、小規模砂留22基、合計36基の砂留の存在が確認されたのである。

この別所砂留は、広島県東部の福山市の北部に位置する芦田町福田を流れる芦田川水系有地川支流五入道川に位置する、砂留構造物である。「砂留」とは江戸時代の石組みの砂防ダムで、福山市には、江戸時代に造られた砂留が多く存在する。歴史を紐解くと地元の旧庄屋頭家に伝わる古文書には、当地、福田村の山林荒廃の実態が記述され、享保7年(1722年)、後の明和元年(1764年)の古文書には、13基の砂留の存在とその維持管理方法が記載されていることから、1700年代中期に砂留普請が実施されたものと考えられる。

別所砂留の全貌が明らかになるにつれ、地



4番砂留 咲き誇る桜



域ではその雄大さに感動が広がり、歴史的、文化的にも非常に貴重なものであることがわかり、さらに整備に力が入った。その取り組みは学区全体のまちづくり事業とすること

なり、整備作業への参加の呼びかけに地元町内会からの支援もあり、多くの方々が参加することとなり、草刈りや林道整備等が飛躍的に進むこととなった。

整備が進んでいくことで、2013年3月、ついに念願であった「第1回別所砂留見学会」を実施することとなった。学区内外より120名もの多くの参加で開催することができ、このことは参加者相互に「地域の宝を守りたい」との思いがさらに高まり、年10回程度の整備事業には、毎回30人を超える人たちが参加することとなった。また、案内看板の設置、仮設トイレの増設が進み、2015年3月第2回砂留見学会を実施することができた。

こうした学区全体での別所砂留の整備に取り組んでいることが、新聞に取り上げられ、この記事が岡山大学大学院の樋口准教授の目にとまり、学術的な測量や調査が進められた。平成27年（2015年）11月、江戸時代に丁寧に積み上げられた砂留を住民が発見し、維持・保全、活用してきていることとともに、良好な状態で現存している貴重な土木遺産と認められたことで「土木学会選奨土木遺産」に認定された。

認定理由には、「江戸時代の砂留が珍しいことです。全国で見ると京都府、兵庫県、高知県で1基ずつ発見されていますが、大々的に砂留を築造したのは福山藩のみです。また福



7番砂留 崩落した石組みの修復作業



7番砂留 発掘作業  
埋もれていた石組みの土砂の除去を行っている



写真上) 7番砂留 整備後の砂留全体の規模が分かる  
写真左) 9番砂留 豪雨後の状況 土砂の流出を防ぎ水だけ通す構造



10 番砂留 整備作業風景

山市の堂々川の砂留が知られていますが、別所砂留はこれをはるかにしのぐ大きささまざまな石組み36基が良好な状態で保存されています。中でも10番は技術的にも「特Aランク」の価値がある砂留です。（樋口准教授）

その「土木学会選奨土木遺産」の認定に合わせ、「別所砂留を守る会」を発足し、その初の事業として、2016年3月第3回砂留見学会を実施したところ、選奨土木遺産認定の効果もあり、予想をはるかに上回る、210名が参加していただいた。

ここで別所砂留の魅力を紹介すると、4番砂留は階段状に石垣が鍔よろいの組み方に似ていることから、鍔積と呼ばれている。その石垣の間に天をつくような枝ぶりをみせる樹齢



10 番砂留 発掘完了 日本一の砂留出現 バンザイで祝う

200年ともいわれる一本の桜の木が、早春には凜とした美しさで訪れてくる人を魅了してくれる。さらに山を登って行くと、左右2基の石組みとまわりの緑のコンストラクトが素晴らしい7番砂留、きれいなアーチを描く9番砂留、選奨土木遺産の推薦にもあったように、歴史的にも技術的にも「特Aランクの価値」があるとされる10番砂留（高さ約18メートル）がある。ここからの眺望は本当に素晴らしいものがあり、ある人は、山の中から忽然と現れる砂留の存在感に圧倒される石組みの砂留群を「福山のマチュピチュ」と言った。こうした砂留が山のいたるところに存在し、現在では、砂留を巡るウォーキングが盛んになっている。



14 番砂留 1年経過するとこれだけ木々が茂る

2016年11月には、地域住民が中心となった整備保存や見学会の開催、砂留を活用した地域活性化への取組等が高く評価され土木学会「市民普請大賞グランプリ」受賞となった。

今後、「無理をせず、自分のできることを楽しくやる」をモットーに「別所砂留を守る会」が中心となって整備・保存活動を行うことはもとより、次代を担う地元小学生への砂留の歴史や魅力を紹介する出前授業を行い現地見学のガイドも積極的にやっている。

最後に「砂留は地域を元気にし、地域を一つにする絆です」「砂留は江戸時代から地域を守る「生きている遺産」です」見学者への挨拶としている。

（別所砂留を守る会 会長 光成良秀）